小阪の隠れた魅力や街の人達の熱い思いなど、AIアシスタントのSiriも知らないような情報を、私達がこの目で、耳で、心で感じたことを発信していきます！

twitterで OUC加藤ゼミ を検索！

Hey Siri、知ってる？

春 2021

Kosaka town paper

［企画・編集・発行］ 2020年度
●小阪わいわい協議会
●大阪商業大学
加藤司フィールドワークゼミナール
〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10
TEL.06-6785-6286（総合交流支援課）

※タイトルロゴは2018年6月にネットで公募して選ばれたものです。

大阪商業大学 Osaka University of Commerce

まちづくりへの情熱、今チューモクの人に聞く!!



あなたの夢はなんですか？多くの若者が一度は夢見る「起業」。ただ、何をしていいのかわからないし、何をすべきか教えてくれる人もいない。

そしていつの間にか諦めてしまう…。

今回は、5年前に障がい者就労支援を行う株式会社TSUNAGUを起業された代表取締役の中村雄太(40)さんと、長年共に歩んでこられた専務の中川真里さんにお話を伺いました。

TSUNAGUは、就労継続支援B型に分類され、通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が困難である人のために生産活動や就労に必要な訓練を行っています。中学生の頃は、「いい車に乗って、いいものを食べて、仕事は全くしなくていい」社長を夢見ていたそうですが、色々な人に助けられ、そのことに対する恩返しの気持ちで今はやっておられるそうです。なぜそのような気持ちの変化が起こったのか。その裏側と起業を志す若者へのエールをインタビューしました。

Q はじめに、中村さんご自身についてお伺いします

A 中村さん 高校卒業後、そのまま就職し、4年ほど勤務しましたが辞めてしまいました。その後、食品や建築の営業など職を転々としましたが、どれもしっくりこず続きませんでした。ただ、「自分で何かしたい」という想いはずっとあり、出来ることはないか探していた時に障がい者の就労支援の仕事と出会いました。

中川さん 色々な仕事をしている中でも、ずっと社長になりたいって言っていたよね(笑)。

中村さん 中学三年生の頃には将来の夢が社長でした。

Q なぜ障がい者福祉のために起業されたのですか

A 中村さん 実家の介護業を手伝う中で、人生の最後に寄り添うことにもやりがいを感じていましたが、それ以上に障がいをもつ若者の未来を支援したいと思うようになったからです。障がい者の方にここを利用していただく場合、普通に会社へ通うように働いてほしいという想いから、看板に「就労支援」と書くのはやめ、内装などの雰囲気作りにもこだわりました。

中川さん ただ「普通」を目指すからこそ、社長は利用者さんに厳しく指導することもあるのですが、そこは私がカバーしながら経営しています。

中村さん カフェを運営するようになったのも、利用者さんの将来を見据えるとアクセサリー製作だけでは独り立ちする際に現実的ではないと考えたからです。たまたま会社の前に空き物件があったため、「この際アクセサリーとカフェを融合してみては」と始めたのがきっかけです。調理や接客を経験することでその後の雇用に繋がる可能性もありますし。

Q 障がい者福祉においての社会問題などはありますか

A 中村さん 問題というとキリがないけど、やはりその子たちを受け入れてくれる会社が少ないことですかね。同じ病名でも人によってできることが違いますから、まずはその辺を理解してもらうことが大事だと思います。また会社としては、従業員や利用者さんなど身近な人を幸せすることが今一番の課題だと考えています。従業員への貢献が、結果として就業支援に結びつきますからね。

Q 大学生などが起業する場合のヒントがあれば教えていただきたいです

A 中川さん 若いのだからとりあえずやってみる、行動する、そこで違うと感じて軌道修正しても全く問題ないと思います。実際に我々も就業支援を目指してやってきたわけではないですし(笑)。

中村さん 私の場合は目標などを持っていたわけではなく、「社長になりたい」とザックリ考えていただけです。ただ、その何倍も失敗していますからね。やりたいことがあるならやるべきだと思いますが、絶対立ち止まって考える必要はありますよ。

中川さん あと一つ思うのは、社会経験を積んでから起業するのでも遅くないのかな、ということです。どんな業界職種でも「何か」役に立つことがあると思います。

中村さん そうやね、やることに遅すぎるとかはありませんから。人それぞれのタイミングがあると思います。僕は人との関わりを忘れないことが大事だと気付かされました。一人では何もできない。色々な人に助けてもらって今の自分があります。まあ、とりあえずやってみればいいんですよ(笑)お金なんて借りられるし、若いうちの失敗は取り返しがつきます。

Q コロナ禍での休業の問題についてどう思われますか

A 中川さん うちが現在休業しているのはコロナとは関係ありません。それどころか、カフェが忙しすぎるため、本来の目的である利用者の方に対するケアの時間が取れなくなったので、運営の仕組みを考え直す期間として休業することにしたのです。

中村さん 正直なところ、絶対に必要かそうでないものかが明るみにでたのがコロナかなと思っています。色々な条件がありますから一概には言えませんが、人は知らず知らずのうちに必要かどうか選択しているのでしょうね。

インタビューを終えて

「一人では何もできない」という中村さんの言葉は、周囲の方々への感謝の表れであると思う。とくに最高のパートナーである中川さんに支えられてきたという想いが強いのではないかと感じた。これからチャレンジする若者たちに、自分と同じような失敗はしてほしくない、と中村さんはおっしゃっていたが、その失敗を恐れない精神があったからこそ、夢であった社長になることができたのだと思う。夢を持つ、それは自分らしく生きる証しなのだ、と実感できた貴重なインタビューであった。

小阪、永和、八戸ノ里駅周辺

あなたの「お気に入りのお店」大募集！

私たちのゼミの目的は、小阪商店街を通じた地域の活性化。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大で、授業もオンラインになり、小阪に来ることも、商店街に足を運ぶこともできなくなりました。コロナに苦しむ商店街の皆さんを、せめて情報発信することで応援できないかと考え、企画しました。今回は3店舗しかご紹介できなかったので、読者のみなさんからコロナが落ち着けば行きたい「お気に入りのお店」を大々的に募集します。

応募いただいた方の中から抽選で、
商店街オリジナルグッズを差し上げます。
ふるってご応募ください。

応募は、店舗名、おススメ商品を含め、
お店の魅力を一言添えて、
https://forms.gle/k4oiAWs3NFtAYsEZ8
までお願いします。

ツナグ茶房



来店するとまず目につくのが、オシャレな外観と内装です。すべて従業員さんの手作り。「価格は大学生にしては高いかもしれませんが、別に若者に人気なお店にしようと思っていないので、無理して安くする必要もないかな」と、中村さん。どのスイーツにも「さぼうくん」がいるのがとても可愛いし、とにかくインスタ映えします！あなたも色々な「さぼうくん」をコンプリートしてみては？ただ、現在は長瀬へ会社を移転するため休業中。その後、茶房をどのような形態で営業されるかは未定とのこと、早く「さぼうくん」に会いたいですね♥





IRORI COFFEE

店主の井本さんは、元プロスノーボード選手。新しい事をやってみようとお兄さんとサイクルカフェを開業、そこから珈琲に力を入れることとなり、2年前に独立してIRORI COFFEEを開業したそうです。独学で試行錯誤する中、オリジナルコーヒーを提供できる自家焙煎に出逢い、「自分だからこそ提供できる喜び、それをお客さんが喜んでくれる喜び」にやりがいを感じているそうです。でも、専門店という堅苦しい雰囲気にはしたくない、色々な人に出会える地域のコーヒー屋さんとして、世代を超えた出会いができるコミュニティの場になりたいと言われています。



オススメ商品

カフェラテ（500円）＆焼き菓子（350円）

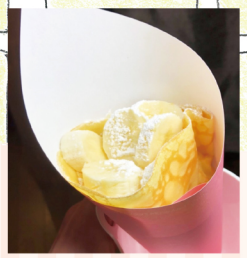
カフェラテは、ふわとろっとしたミルクの中に、ほんのりとしたコーヒーの苦味と香りが楽しめる絶品、国内産の原材料にこだわった甘さ控えめの焼き菓子は、コーヒーとの相性が抜群です。







ami de kikuya



オススメ商品

クレープ（450円～）

クレープは選ぶのに困ってしまうほど種類が豊富。注文を受けてからホイップしてくれる生クリームともちもちの生地が相性バッチリで美味。お持ち帰りもできますが、時間があれば店内がお薦め。シェフの面白いお話が聞けるかもしれません。



今回はクレープを取材しましたが、本来は予約制のフレンチを提供しているレストランです。シェフの吉野さんはこれまでの経験を活かし、料理セミナーなども行っています。コロナの影響はありますか？という単刀直入な質問に対して、そりゃ大変です。でもそれはどの店も同じ。もう我慢するしかないと一言。商店街というと入りづらいイメージがあるかもしれませんが、そんなことはありません。通学路になってほしいくらいだし、学生さんも気にせず足を運んでください、とのことです。